

## 交通事故の少ない名門大学に

た」体験を記録したり、互いに他者の体験を我ものとすべく、友達などとそのような体験を交換することである。

③交通事故の「危機管理マニュアル」を作成しておくことである。さまざまな事故場面を想像して、できるだけ具体的に取るべき行動を用意しておくことよい。事故など緊急事態ではパニックに陥り、どうしてよいかわからなくなる場合が多い。緊急時での具体的な行動手順や連絡先リストを自分で書いたメモにして車に備付けておくことよい。

④事故の際の法的責任や補償について、知識をもっておくことである。

大学生だからといって、「自動車やオートバイに乗るな」とは言わない。「乗るならそれだけの準備をし、覚悟せよ」と言いたい。広島大学では、学生部の世話で、「セーフティ・カレッジライフ」大学生の交通安全への「すすめ」を作成して、配布している。是非、それを読んでいただきたい。ここに述べたことがより詳しく、わかりやすく書いてある。そして、できれば教室でクラブやサークルで話し合ってほしい。わが大学を事故の少ない名門大学にしたい。

## くるまに乗った時の人間心理

学校教育学部学校教育講座

西山 啓

### 「憧れのくるま」も 変じて「危険」となる

高校時代は、殆どの諸君が「三ナイ（高校生は免許を取らない、バイクに乗らない、乗せない）運動」の影響で、バイクやくるまとは縁がなかったと思います。

殊に諸君は、親や先生方から「まず勉強して大学に合格せよ、大学に入ったら免許でも何でも思いのままだ！」などと妙な激励(?)を受けていたかも知れません。

また、高校時代に受けた「交通安全教育」も、大学受験に関係がなければ、とうてい身には着かぬのが、ものの道理と言うべきでしょう。

う。かくしてめでたく大学へ入学し、いよいよ憧れのくるまの免許に挑戦するわけですが、ここで忘れてならぬ事は、便利なくなるまでも、使いようによっては、危険で、場合によっては、我が身の破滅につながる事もしばしばです。そこで、「くるまに乗った時の人間心理」について解説しておきましょう。この話は恐らく自動車学校では、教わる事はないでしょうから…。

### ハンドルを持つと人格が変わる!?

「自分のくるまに乗ってハンドルを握ったとたん、如何なる紳士淑女も、凶暴なドライバーに変身する、つまり羊がおおかみになる…」とよく言われます。これは果たして真実なのでしょうか、もしそうだとしたら、どの様な理由なのでしょうか。」



学校教育学部での交通安全講習会